PEN 言語教育サービス
Reports for English Education

PLES Report No.20

語彙力を育てる

田中茂範
PEN言語教育サービス

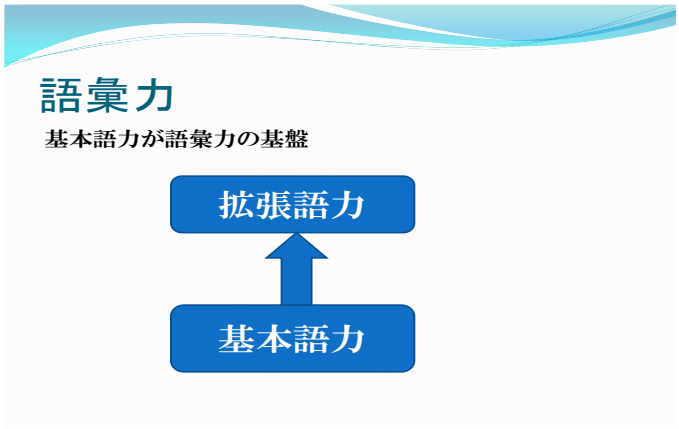
はじめに

語彙力は英語の力を知る最大の指標です。英語の語彙を知らなければ、英語で何も語ることはできません。しかし、英語の語彙を学ぶ目的は、知っている語彙の数を増やすことだけではありません。その目的は、語彙力を身につけ、高めていくことです。では、語彙力とは何でしょうか。例えば TOEIC や TOEFL といった英語の標準テストが広く用いられています。そのテストの中には語彙力に関する問題が含まれています。しかし、あるテストで測定しようとしている語彙力とは何かと問えば、明快な解答が得られるないことがあります。これはテストの妥当性にかかわる問題です。妥当性というのは、「本来測定しようとしているものを測定しているかどうか」を問う問題だといえます。これはテスト作成の問題ですが、語彙を学習する際にもその目的となる語彙力を明確にしないまま学習を続けても、英語力に貢献する語彙学習にならない可能性があります。それでは、向かう方向の見えない学習になってしまいます。

語彙力の定義

本稿では、語彙力とは、「基本語力と拡張語力から構成される」と定義します。基本語力は「基本語を使い分け、使い切る力」のことをいいます。一方、拡張語力は「領域の種類＋語彙量」としてとらえることができます。どういう領域についてどれだけ豊かな語彙量を持っているかというのが拡張語力だといえます。簡単にいえば、どれぐらいの語彙数を持っているか、そして、その語彙でどれだけの話題を語ることができるか、これ拡張語力であり、語彙の量的側面であるといえます。話題として「犯罪」と「軍事」については強いが、「科学」や「物理」は弱いということがあるでしょう。ということは、ただ、語彙の数が多いというだけではなく、その語彙がカバーする領域も考慮しなければならないということです。基本語力を語彙力の基盤として拡張語力を必要に応じて伸ばしていくというのがここで想定する語彙学習の姿です。基本語力が語彙力の基盤になるということです。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.



ここでいう基本語には、名詞を除けば、動詞、形容詞、副詞、前置詞、代名詞、疑問詞、接続詞、冠詞を合わせて 1000 語程度になります。そのほとんどが中学校の英語で学ぶ単語だといえます。しかし、2000 頁に 10 万語程度の語彙を収録する辞書の 5 割以上をこの基本語の記述が占めています（例えば、get など 4 頁分を使う）。このことは、基本語の持つ意味の可能性が以下に大きいかを物語っています。約 1000 語を基本語と見なした場合、英語の基本語力において特に注目しなければならないのは基本動詞と前置詞だといえます。基本動詞は have や make や give にみられるように文法との関連があるばかりか、物事を語る上でエンジンとしての役割を果たします。一方、英語は前置詞言語であるといってもよいほど、前置詞の英語表現において果たす役割はこれまた大きいといえます。

この章では、まず基本動詞と前置詞に関する基本語力を身につけるためにコアが、拡張語力の育成には語彙ネットワークの視点が有用であるという指摘を行います。本章での教育的示唆は、「語彙力を育てるには、コアで本質を掴み、ネットワークで繋いでいく」ということです。

基本語学習の問題点

基本語力は「基本語を使い分け、使い切る力」のことであると定義しました。しかし、実際は、使い分けに対して使い過ぎ、使い切りに対して使い残しが克服しなければならない問題となります。そもそも英語の語彙を日本人が学ぶ際に避けて通ることのできない学習法力として「翻訳語を充てる」というものがあります。これは、in spite of に対して「～にもかかわらず」、uncomfortable に対して「不快な」、accountability に対して「説明責任」といった具合に日本語を通して英語の語彙の意味を学ぶという方法で、ここで挙げた例のような場合には大変に有効な学習方法です。in spite of の意味を日本語なしに理解しようとすれば容易ではありません。一言でいえば「拡張語」については、absenteeism（常習的欠勤）、accommodation bill（融通手形）、comfortable majority（安定多数）、bulimia（過食症）のように翻訳を充てるという学習方略は有効なものといえます。むしろ翻訳語なしてこれらの語彙の意味を理解しようとすれば途方もなくむずかしいということが想像できるでしょう。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

しかし、put のような基本動詞の場合はどうでしょうか。英和辞典では「置く」「課す」「翻訳する」「言い表す」「つける」といった語義が以下のような用例における put の意味としてリストされます。

1. Don't put your dirty shoes on the bed.ベッドに汚い靴を置かないで
2. They put a heavy tax on imported cars. 輸入車に重い税金を課す
3. Ed put a Japanese novel into English. エドは日本語の小説を英語に翻訳した
4. Let me put it this way. こう言ったらどうでしょうか
5. She put a nice broach on her dress. 彼女は素敵なブローチをドレスにつけた

しかし、「置く」「課す」「翻訳する」などはまったく意味の関連性のない表現で、日本語にした途端に put の意味の連続性は絶たれてしまいます。それだけではありません。辞書にある日本語訳を全部足せば、put の意味を理解することができるかといえば、そうはいきません。というのは put の典型的な意味だと考えられている「置く」を 1 つとっても、「置く」は put の意味の一部ではないからです。日本語の「置く」からは place や set といった動詞も連想されます。また、「ジョンは新しい秘書を置いた」と日本語で言いますが、英語では John staffed a new secretary.であって、ここで put は使いません。「この店にサングラスを置いていますか」も Do you carry [have] sunglasses?であって、put は使いません。すると、英和辞典からは「put = {置く、課す、翻訳する、言い表す、つける}」と言った 1 対多の英日関係ができます。そして、「置く」に注目すると、和英辞典を参照すると「置く={put, place, set, staff, carry}」といった 1 対多の日英関係が作られることになります。「課す」や「翻訳する」においても同じです。これは、put を学習するほとんどの日本人が直面する問題です。

英語では put は put のはずです。put に本来たくさんの意味があるはずがありません。むしろ、日本語の訳語は、put の意味ではなく、それが使われる状況を表した言葉と考えると、「put は put である」という直観と整合します。つまり、「A を B に翻訳する」という状況で put A into B を使うということです。ほかにも turn A into B だとか translate A into B さらには render A into B などの選択肢がこの状況を表す際には考えられます。put か turn によって同じ「翻訳する」でも意味合いが異なり、その意味合いの違いは put や turn の本来の意味に起因するということです。では、それぞれの本来の意味をどう捉えるかということになりますが、この問題は次のセクションで扱います。その前に、もう少し、基本動詞を学習する上でのさらなる問題にふれておきます。

ほとんどの人は put と聞けば「置く」を連想します。put にはたくさんの訳語があるのにどうして「置く」が選ばれるのでしょうか。「put の意味は『置く』」だと教師に明示的に教えられたから、と答える人もいるでしょう。また、初期入力の効果といったものがあり、最初にインプットした内容が学習が進んでも印象深いものとしていつまでもその効果が続くということもその理由のひとつでしょう。いずれにしても「put = 置く」というのが put の

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

基本的な意味であるということについては多くの人の信念になっています。しかし、上述したように「置く」はすべて put で表現することができるかといえば、そうではありません。しかし、このことはそれほど大きな問題ではありません。むしろ「put = 置く」という理解が定着してしまえば、put を自由に使うことが抑制されてしまう、ということが問題なのです。「put = 置く」から「目薬をさす」という状況で put を使うことはなかなか想像できません。同様に「82 円切手を封筒に貼る」という状況で put を使うこともなかなか思いつきません。つまり、「put=置く」が put という動詞を使い切ることの制約になっているということです。

ここでは、「翻訳語を充てる」という学習方略は、第二言語として英語を学ぶ際にはごく自然なことですが、基本動詞のような使い勝手のよい多義的な語彙においては問題があるという指摘を行いました。では、多義的な状況で使うことができる基本語をどう学べば、基本語力になっていくのでしょうか。この問いは、基本語の意味をどうとらえればよいのかという意味論の問題に関係しており、以下ではそのことについてお話します。

基本動詞と前置詞の意味論

ここでは、多義的な基本語の中でも、基本動詞（take、get、see、put、hold、break、cut など）と前置詞（in、on、at、over、under、across、to など）に注目します。この 2 つは、筆者が「基本語力」という際に最も重視している項目であり、また意味論的にも類似性があるためです。基本動詞と前置詞の意味はたくさんあって多様で複雑だという印象がありますが、意味論的には、多様で複雑なのではなく、「単純で曖昧である」という立場が妥当だと考えます。その理由を説明します。

それは、基本動詞や前置詞の意味は、名詞の意味とは異なります。名詞にはその指向対象（指さす対象）があり、指向対象との関係によって意味が決まります。指向対象には知覚対象（知覚でとらえることができる対象）と観念対象（定義によって作られる対象）に分かれます。知覚対象の場合は、対象が先にあり、それに言語を充てていくことができますが、観念対象の場合は、言語が先でそれに定義を加えて対象を創り出します。「犬」という名詞はある対象を指すのに用いられます。この場合、「犬」というコトバが向かう先は知覚対象（ある動物）です。一方、「尊厳」というコトバが向かう先は観念対象であり、その内容は「尊厳」という言葉の定義として創られるものです。例えば「尊厳」は「生命，身体，名誉，プライバシー，良心，思想，信条といった，尊く，厳かで，侵してはならない人間としての価値」として定義され、それが観念対象になるということです。なお、「犬」の場合も「犬というものについての理解（概念）」がなければ「猫」との差異化はできず、「観念対象（概念）としての犬」が指向対象になることがあります。

要は、名詞の意味の取り扱いにおいては、名詞とその指向対象（知覚対象、観念対象）との関係で考えることができるということです。一方、動詞の場合は、それが指す対象はありません。例えば break はたくさんの状況で使うことができる動詞です。break bread といえ

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

ば「パンをちぎる」、break a horse といえば「馬を飼いならす」、break a news といえば「ニュースを突然伝える」、break a hundred dollar といえば「100 ドル札を崩す」ということです。これらは他動詞の例ですが、文にするには主語が必要です。Break には自動詞用法もあり、My voice broke at twelve.だと「12 歳で声変わりした」ということだし、野球で His ball is really breaking today.といえば「(投手に言及して) 今日はボールがとても切れている」となるでしょう。

すると、break の意味の特性として、f (x, y) といった関数式になぞらえて、break (x, y) において x と y の値によって break の意味が決まる、と考えるのが妥当です。break (Ned, a horse)と break (CBS, a special news)とでは、break の意味合いはそれぞれ「(ネッドは馬を) 飼いならす」と「(CBS は臨時ニュースを) 伝える」となります。この break は 2 つの名詞を関係づけてあるコトを表現するはたらきをしています。Ned と a horse はそれぞれ異なった 2 つの名詞 (モノ) ですが、break が 2 つのモノを関連づけることで「ネッドが馬を飼いならす」ということを表現しています。

前置詞の場合も同様に、2 つのモノの意味関係を表すという意味において、その意味は関数的であるといえます。例えば on の使い方を見ると、apples on the tree (木になっているリンゴ)、a shadow on the wall (壁に映った影)、boys on the bus (バスに乗っている少年たち)、a fly on the ceiling (天井にいるハエ) などがあり、これも on (apples, the tree)、on (boys, the bus)といった形式で表現することで、on は x と y の値を空間的に関係づける機能をしていることがわかります。

break の意味も on の意味も x と y の値によって定まるという意味において関数的です。そして、ここで関数的ということは、動詞と前置詞の意味はそれ自体では曖昧であるということです。

基本動詞の意味が曖昧であるということについて、take を例に見ておきます。例えば John took some pills. から「ジョンは錠剤を飲んだ」と訳されるでしょう。しかし、以下のような情報を追加すればどうなるでしょう。

John took some pills　　**追加情報**

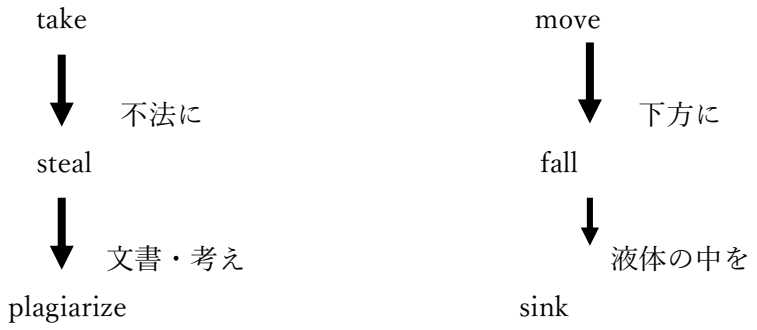
- and put them on the table.
- to Mary.
- in a drugstore and got arrested.
- away from children.

追加情報が and put them on the table であれば、John took some pills の took は「飲んだ」ではありえません。この場合は、「ジョンは錠剤を手にしてそれを食卓に置いた」といった感じでしょう。また、to Mary が追加されれば、「ジョンは錠剤をメアリにところにもっていった」という意味合いです。さらに、away from children が追加されれば「ジョンは薬を子

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

どもたちから遠ざけた」という意味合いに変ります。状況によっては、John took some pills in a drugstore and got arrested. は「ジョンは薬局で錠剤を盗んで、逮捕された」ということも考えられます。

いずれにせよ、ここでのポイントは、take some pills だからといって「錠剤を飲む」という意味が確定しているわけではないということです。言い換えれば、take に「飲む」という意味や「盗む」という意味が本来的に備わっているわけではない、ということです。そして、意味に曖昧性があるからこそ、さまざまな状況に使うことができるのです。逆に、意味の輪郭がはっきりしている動詞は意味拡張の可能性は大きくありません。以下を見てみましょう。



例えば take はそれ自体では意味が曖昧ですが、「不法に」という意味要素が組み込まれることで steal（こっそり盗む）が生まれ、steal に「他人の文書・考え」を組み込むことで plagiarize（剽窃する）が生まれます。同様に、move といえば「移動する」しか表しませんが、「下方に」という意味要素を組み込むことで fall が生まれ、fall に「液体の中に」が組み込まれることで sink（液体の中を沈む）が生まれます。

組み込まれる意味要素の数が多ければそれだけその語彙の輪郭（＝意味）ははっきりしてきます。また、意味の具体化に比例して意味の可能性は小さくなります。

しかし、「意味が曖昧である」というだけでは、意味論として十分ではありません。先に、基本動詞と前置詞の意味は「単純で曖昧である」と述べました。問題なのはここでいう「単純な意味」とはどういうものか、ということです。

単純な意味＝コア図式

言語学者 Dwight Bolinger（1977）は、意味に関する原理として以下の２つを挙げています。

A:形が違えば意味が違う。
B:形が同じなら共通の意味がある。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

前者は、完全な同義性を排除する主張だといえます。will と be going to は同様の状況で使うことができますが、この２つは形が違うことから意味にも違いがあります。「電話が鳴って私がとります」という状況では I'll get it.であって、I'm going to get it.とは言いません。「似ている」に相当する resemble と take after においても同様です。例えば他人同士が似ている場合に take after は使えません。ここでは、B の主張に関心があります。ここでいう「共通の意味」が上で述べた「単純で曖昧な意味」のことです。

この「共通の意味」は「put は put である」とか「on は on である」という直観を反映したものです。Lev Vygotsky（1962）は「語義（sense)」と「意味（meanin)」を区別して以下のように述べています。

「語彙はそれが現れる文脈から語義（sense）を得る。異なった文脈では、語義は変化する。しかし、意味（meaning）というものは、語義の変化を通じて安定している」

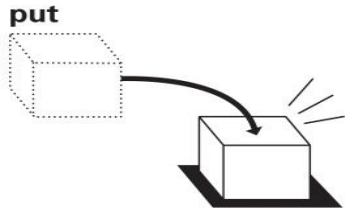
語義は変化しても、その背後には共通の意味があるということです。本稿では、「共通した意味」のことを「コア」と呼ぶことにします。

Mark Johnson（1987）は、意味の身体性を論じる中で、人は身体的な経験を基盤にしてスキーマ（意味図式）を獲得し、その図式の応用によってさまざまな言語活動を行うという主旨のことを述べています。意味図式はイメージであり、イメージ・スキーマと呼ばれることもあります。部屋の中にいれば「空間内」という意味図式と結び付き、それは in という前置詞で表現される。そこで、in の意味は「空間内」を表す意味図式として表象されるようになるということです。基本動詞の多くは、動作動詞であり、さまざまな動作と動詞の関係の中から、動作に依拠した意味図式のようなものが創られると考えることができます。こうした図式をコア図式（コア・イメージ）と呼びます。そして、コア図式を意識した学びを行えば、基本語の学習で先に挙げた問題（初期入力効果の問題、意味の分断の問題など）を最小限に抑え、基本語力（使い分け、使い切る力）を育てるのに有効なはずです。以下では、具体的にコア図式がどう役に立つかをみていきます。使い切りの事例としては、これまで言及の多かった put を取り上げます。そして、使い分けについては、see と look の関係についてみていくことにします。さらに、前置詞の事例として on を取り上げます。

事例１：put を使い切る

put のコアは「何かを（元あったところから動かして）どこかに位置させる」ということで、コア図式で示すと以下のようになります。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.



コア記述：「何かを（元あったところから動かして）どこかに位置させる」

ここでは目的語となる「何かを」だけでなく、「どこかに」という場所情報が必要だということがポイントです。「位置させる」というコア感覚がわかりやすく表れているのは「猫を外にだそう」という状況で、Let's put the cat out. と表現する場合です。文字通り、「猫を外に位置させよう」ということですね。上の Put your hand under the tap. にしても蛇口の下に手を位置させるということです。

「put = 置く」と考えるのではなく、「put =位置させる」と考えるほうが put の感覚に近い理解になります。しかし、「位置させる」といっても place といった動詞との違いがはっきりしません。あえて両者の違いを説明すれば、place が「位置させる場所」に関心が置かれるのに対して、put の場合には「何かを元ある場所から動かしてあるところに位置させる」ということから移動が前提として含意されます。

しかし、基本動詞の使い方を身につけるには、日本語に置き換えるのではなく、「プットする」というカタカナ語を用いることが有効です。put のコアは「何かを元ある場所から動かしてあるところに位置させる」ということだと理解した上で、「プットする」という言い方に慣れるということです。「ゲットする」や「キャッチする」はすでに日本語になっていますが、「プットする」「テイクする」「ランする」をそのリストに加えていけばいいのです。

「何をどこにプットするか」によって put のさまざまな意味合いが生まれてきます。put an 82-yen stamp on the envelope だと「82 円切手を封筒にプットする」ということですが、日本語でその状況を表せば「封筒に 82 円切手を貼る」となります。この場合、「貼る」が put の本来の意味ではありません。同様に、put a picture in the envelope だと「写真を封筒にプットする」ということで、日本語では「封筒に写真を入れる」と表現します。ここで注意したいのは「(切手) を貼る」や「(写真) を入れる」は put の「意味」ではなく、put を使って表現することができる状況を日本語で表現したものにほかなりません。

put という動詞の特徴は「何かをどこかに位置させる」ということで、「どこかに（移動先)」に関する情報が必ず必要になります。ある店の店主に「スコップを置いていますか」と聞く場面では Are you putting shovels? とはいえません。Are you carrying shovels? あるいは Do you have shovels? がここでの適切な表現です。また、「電車の中に傘を置いてきた」という状況も I put my umbrella in the train. とはいいません。I left my umbrella in the train. が適切な言い方です。「電車の中に（傘を置いてきた)」 は場所に関する情報ですが、それは「傘の移動先」を表すものではありません。もし誰かが I put my umbrella in the train. と

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

いえば、それは「傘を電車の中に入れた」という意味合いになります。

Put your hands above your head. といえば「両手を頭の上に上げろ」という意味合いです。Hold your hands above your head. も似た意味合いになりますが、hold は手の移動ではなく、「両手を頭上に置いた状態のままでいろ」ということでニュアンスが違います。トイレの表示で「ここに手を当てると水が出ます」を Hold your hand in front of this sign. と表現していました。Put your hand under the tap. と比較すると、put だと手の移動が、hold だと手前に手をしばらくかざしておくことが意図された表現です。

以下は、「何をどこにプットするか」で変わるさまざまな状況の例です。

How can you put that Japanese expression into English? その日本語の表現をどう英語にしますか？
That would put her into shock. そのことで、彼女、ショックを受けるよ。
Her nagging always puts me in a bad mood. 彼女のがみがみにはいつも気分が悪くなる。
Put yourself in my place. 僕の立場になってみてよ。
Having a doctoral degree put her in a better position to get the job 博士号を持つことで彼女はその仕事を得るのに有利な立場になった。
Because of the recession, millions have been put out of work. 不景気のせいで何百万もが失業されられた。

「何かをどこかにプットする」という際の「どこかに」は物理的な意味での「どこか」だけでなく That would put her into shock. のように、心理的な意味での「どこか（状態）」であることもあります。以下の例でも「何をどこに」に注目してみてください。

Now is the time to put duty before pleasure. 今は遊びより仕事を優先すべきときだ。
Look, you've made some bad mistakes, but you must put them behind you and go on with your life. ねえ、たしかにひどい間違いをしたけど、そんなことは忘れて、生きていかなくちゃ。
I put Hemingway among my favorite authors. 私はヘミングウエイがお気に入りの作家のひとりだ。
The deep love I feel for you cannot be put into words 君への僕の深い愛は言葉にはできない。

さらに put には「述べる」といった意味合いの用法があります。

Well, let me put it this way. では、別の言い方をしましょう。
The world is, to put it mildly, in trouble. 世界は控え目にいっても混乱している。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

ここでは、this way や mildly が「移動先」になります。ある表現がうまく伝わらない場合、Let me put it this way. のようにいいます。「ある表現」が it で、this way が「別様の言い方」といった感じです。to put it mildly は「ある表現を柔らかい状態にプットする」ということです。

移動先に関する情報を表すには、前置詞句がすぐに連想されますが、here、there といった副詞だけでなく、in、away、off といった副詞も重要な役割を果たします。put off という熟語を例として見ておきましょう。put off といえば「〜を延期する」を連想する人が多いと思います。Don't put off till tomorrow what you can do today. （今日できることを明日まで延ばすな）という諺はお馴染みです。しかし、put off は「何かを離した状態にプットする」ということで、予定が話題の前提の場合には「延期する」とか「延ばす」という意味になります。しかし、put off は「延期する」だけでなく、以下のようないろいろな状況を表現するのに使うことができます。

Put off your silly ideas. ばかげた考えは捨てなさい。
Please put me off in front of the cinema. 映画館の前で降ろしてください。
Will you put the lights off? 明かりを全部消してくれませんか。
Don't talk to me. You're putting me off. 話しかけないで。気が散るから。

考えを頭から切り離してプットすれば「考えを捨てる」という意味合いになります。集中している状態で、私をその状態から離した状態にプットすれば、「気を散らす」といった意味合いになります。しかし、ポイントは「何かを off の状態にプットする」というのが put off であって、前提となる元の状態が何であるか、何をプットするか、によって意味合いが異なってくるだけです。

事例2：look と see の使い分け

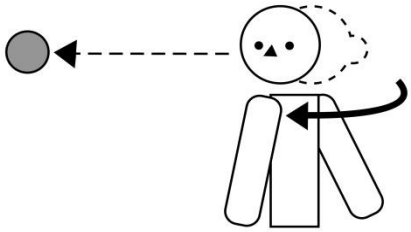
「何かをみる」を英語で表現する状況で、look と see が連想されると思います。これらの視覚動詞は中学校で学び、基本的で簡単なものと考えられています。確かにこれらは基本的ですが、簡単かといえばなかなか使い分けがむずかしい場面もあります。

まず、look と see の違いを考えてみましょう。その手がかりになるのは、Look and see what's going on outside.（外で何が起こっているか見てみよう）という表現です。順番が look and see で、その逆ではないというところが大切です。先に look して次に see するという順番になります。それは、どうしてでしょうか？

まず、look のコア（本質的な意味）は「視線を向ける」というものです。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

look



何かを見るには、まず、それに視線を向ける必要があります。この「視線を向ける」という捉え方から look のいろいろな使い方を説明することができます。

第一に、視線を向けるということは、視線を向ける先を示す必要があります。そこで、look は通常、at, up, in, over, back, through, around などの前置詞や副詞を伴って使うわけです。"Don't look back. Look at him. He's always looking ahead."といえば「済んだことは考えないで。彼を見てごらん、いつだって前を向いて生きているだろう」といった意味になりますが、look back、look at、look ahead はすべて視線をどこに（あるいは何に）向けるかで決まる表現です。

第二に、上でも Look and see what's going on outside. の用例についてふれたように、物事の順番としては「あるモノに視線を向けて、そして見る」が自然であり、そこで look and see という言い方が自然になるわけです。

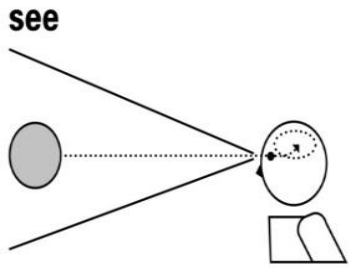
第三に、look の「視線を向ける」という働きを利用して「相手の注意を引く（attention-getting)」表現として 使うことができます。 "Look, there's a castle down the hill." （ほらみて、丘の下に城があるよ）の look がその例です。ミニテストの Look what time it is. は慣用表現ですが、この look も「視線を向ける」から「注意を向ける」になっている例です。

第四に、「視線を向ける」ということは、look は動作動詞であるということになります。だから、He is looking at the dog. のような進行形にすることができるのです。犬に視線を向けているかどうかは第三者にもみることができるため、He is looking at the dog. と表現することができるのです。後ほど説明するように、He is seeing the dog. とはふつういいません。

第五に、look は対象に視線を向けるという動作的な意味合いで使うだけではなく、その対象から受ける印象がどうだという印象的な意味で使うことがあります。「〜のようにみえる」というのがその意味です。I looked at John.は「私はジョンを見た」で、John looks happy. は「ジョンはしあわせそうにみえた」となります。これは、ジョンに視線を向けたその結果として、ジョンの様子が反射してくるような関係です。

一方、see のコアは「視覚器官が働き、何かを視野にとらえる」というものです。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.



see のコアには「視覚器官の働き」と「対象を視野に捉える」の２つの要素が含まれていますが、それは名詞形の sight に「視力」と「景色」の２つの意味があることを考えると分かりやすいですね。「生まれたばかりの赤ん坊は目が見えない」は「視覚器官の働き」に重点を置きつつ、Just born babies still don't see. と表現することができます。「暗闇で何も見えない」という状況でも、暗闇では視覚器官がうまく機能しないため、I can't see anything in this darkness. と表現します。

「対象を視野に捉える」の典型例には、I saw a boar in the mountain yesterday. （昨日、山でイノシシを見た）や I can see a lot of stars here. （ここではたくさんの星がみえる）が含まれます。実際に、何かを（静止画的に）視野に捉えるというのが see のポイントで、外からは何かがみえているかどうかはわかりません。これが look との違いです。そこで、He is seeing the dog. とはふつういいません。また、通常、何かに視線を向けると、それを見ることになりますが、厳密にいえば、look は「視線を向ける」がポイントで、「実際に何かを見る」までは含みません。そこで、I looked over and over again but didn’t see anything.（何度も何度もみてみたけど、何もみえなかった）といった表現が可能なのです。公園である知り合いが自分のことを見ていたという状況で、He was looking at me in the park. と表現しますが、実際は視線を向けていただけで、自分のことを見ていなかったということは十分にあります。

「視野に何かをちゃんと捉える」ということから「わかる」という状況でも see を使います。He doesn't see that it matters. （彼はそれが大事だということがわからないのだ）だとか I see what you mean（おっしゃることはわかります）がその例です。

通常、「見える」という意味合いでは see を進行形にすることはしません。しかし、「人物を見る」ことから「会う」、さらに「付き合う」と意味が展開した場合には、I am seeing John.（私はジョンと合っている）のように進行形で表現します。付き合えば「ジョンを見る状態が続く」ということになります。そこで、習慣的意味を表すのに進行形が使われるのです。

なお、see の対象はモノや人だけではありません。上のミニテストの see the day when injustice disappears のような拡張した使い方もあります。The 20th century saw the landing of humans on the moon. （20 世紀は人間が月に降り立つのを目撃した）のような使い方もあります。さらに、I saw the boy swimming across the river. （私は、少年が川を泳いで渡

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

っているのを見た）のような使い方も可能で、この場合の see の対象は［the boy swimming across the river］です。

look と see の違いに加えて、watch も見ておきましょう。watch のコアは、「動きがあるものを注意して見る」です。何か変化を予測しながら見ているというのが watch です。I usually watch TV after dinner.（夕食後たいてい TV を見る）の TV はテレビ映像のことで、テレビ受信機ではありません。映像はどんどん変化します。ミニテストで、Could you watch the children while I'm away？というのがありましたが、「子どもは動き回るもの」という前提があり、「しっかり見張っている」という意味合いがあります。Look! だと「ほら、みて」という意味合いですが、Watch（out)! だと「気をつけて」となります。Watch your steps.（足元に気をつけて）も危ないことがあるかもしれないので注意を向けておくということです。Watch your language.（コトバ使いに気をつけなさい）は、悪態をついたときなどに戒める表現ですが、相手のコトバが乱れないように注意せよ、という意味です。a watcher は「情報筋」の意があるが、状況変化に注意を向けている人のことです。

look も see も watch も「みる」ですが、区別の仕方としては、look は「何かに視線を向けてみる」、see は「何かを静止画的にみる」、watch は「何かを動画的にみる」と考えておけばよいと思います。see の「静止画的」は watch の「動画的」との比較で使っていますが、１つの対象、１つの出来事、１つの経験として視野に捉えるという意味です。

「昨夜、テレビでおもしろい映画をみた」は、通常、I watched a good movie on TV last night.（毎朝、テレビをみます）といい、「昨夜、映画館でおもしろい映画をみた」は、I saw a movie in the theater last night. といいます。前者は、on TV があるため「流れている映像」のイメージが強くなり、watch と相性がよくなります。一方、映画館は場所であり、そこで映画をみたという場合は、「流れる映像というよりも１つの作品をみた」という意味合いが強くなり、ちょうど絵画を視野に捉えるように映画作品を視野に捉えたという表現だといえるでしょう。「先週、映画を３本みた」は I saw three movies last week. となります。それは、作品として見る経験をしたということなので「何かを静止画的にみる」の see が好まれるのです。

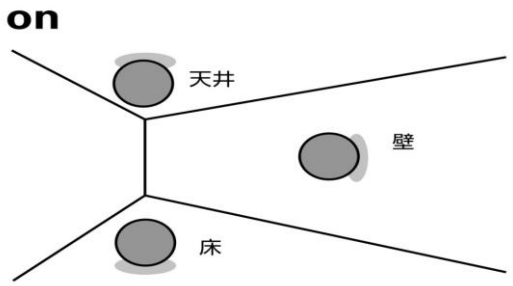
事例3：前置詞 on の学習

コア図式の考え方は前置詞についても有用です。ここでは事例として on を取り上げてみましょう。

onの意味を「……の上に」と理解しているとその本質をとらえ損ないます。onのコアは「接触」です。しかし、接触といっても面への接触もあれば、点的な接触もあります。on の典型例は、The cat is on the sofa.（ 猫がソファにいる）のように、水平面への接触を表します。しかし、The fly is on the wall / the ceiling.（ハエが壁/ 天井にいる） のように、垂直面への接触も同時に表します。a tattoo on the shoulder（肩の入れ墨）、the steam on

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

the car window（車の窓の曇り）、the shadow on the wall（壁の影）なども、「面への接触」ということで考えることができます。onのコアは、「接触」を表し、次のような図で示すことができます。



まず、「面に接触して」の典型例には、以下があります。

●「面に接触して」の典型例
a car on the road 路上の車、the man on the bench ベンチに座っている男、a few lines on her forehead 彼女の額の数本のしわ、a label on the bottle ビンのラベル

「（乗り物）に乗って（移動中）」の意味合いではon を使います。on board といえば「船上に」「機上に」のいずれの意味にもなりますが、乗り物が動くという前提があります。boardは「板」が基本義で、on boardは「板に乗っている」感覚です。All aboard.は船、飛行機、バス、電車で使いますが「全員乗車（乗船、搭乗）して下さい」ということです。このイメージを転用して、on the bus、on the train、on the ship、on the planeのようにonを使います。

「線上」に接していてもonを使います。これも「面への接触」の応用です。the sun on the horizon（地平線上の太陽）がその典型例です。がけっぷちに男性を見つけ、それを表現するのにLook at the man on the edge of the cliff.とLook at the man at the edge of the cliff. の両方が可能ですが、前者のほうが崖にかろうじて接している感じで、その分だけあぶなっかしさを感じさせます。

「接する」のは面だけでなく点的な接触もあります。例えばthe fish on the hook といえば「針にかかった魚」ですが、針と魚の接触を on で表現しています。また、There are many apples on the tree. といえば「リンゴがたくさん木になっている」という状況を表現していますが、ここでもリンゴの茎が木に接している状況をon で表現しています。

「面への接触」が意味展開すれば、「基盤にして、支えにして（support）」といった意味合いが出てきます。a bottle on the table（テーブルのビン）といえば、the tableが土台としてa bottleを支えるという関係が成り立つからで、そこから「依存」の意味が派生するのです。「逆立ちする」を stand on one's hands といいますが、これは「両手を支えにし

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

て立つ」ということです。同様に、「仰向けで寝る」「うつ伏せで寝る」「横向きで寝る」はそれぞれ sleep on one's back、sleep on one's stomach、そしてsleep on one's side と表現します。考え方はすべて同じです。

「土台（支え）」の応用例としては、I can't fight on an empty stomach.（腹がへっては戦はできぬ）という言い方があります。on an empty stomachは文字どおり「すきっ腹を基にして」という意味合いです。We live on potatoes.（私たちはポテトを常食にしている）となると、生存がポテトに依存する、ということになり、そのことから「常食とする」などの意味が派生するのです。count on（当てにする）、rely on（頼りにする）などの表現も「基盤・土台」のonの応用です。on the busで「バスに乗っている」という意味になることを紹介しましたが、このイメージの応用から「……に属して」の意味合いでの「関係・所属」を表すonにもなります。We have many students on the team.（チームに属している生徒が多い）やHe serves on several committees.（彼はいくつかの委員会に属している）がその例です。「属す」という日本語から英語のonは捉えにくいところがありますが、many students on the teamを「チームという『乗り物』に多くの生徒が乗っている」と捉えるとonの感覚と結びつきます。

「何かにのって」を比喩的に使えば、次のようなon の用例にもつながります。

●「何かにのって」を比喩的に使った例
・Everything is on schedule.　すべて予定通りに運んでいる。
・Something is on my mind.　何か気になることがある。

on scheduleは「予定にのっている」ということで、on my mindは「何かが心にひっかかっている」ということです。Georgia on My Mindという名曲があります。これは「我が故郷、ジョージア」と邦訳されています。onに注目すれば「故郷のジョージアが心にひっかかって離れない」ということです。一方、I have a funny idea in my mind. といえば「心の中に変わった考えを抱いている」といった意味です。

「点的な接触」の比喩的展開だと、「連続性」の意味合いが出てきます。これは副詞表現ですが、on and on（連続的に）やon and off（断続的に）がそのことをうまく表しています。前置詞onの「連続性」は、keep on…（……し続ける）、go on…（……し続ける）などの表現にみられるばかりか、on duty（当番で）、on (the watch（警戒中で）、on the go（活動中で）などの表現の背後にも読みとることができます。

「接触」から一見理解しづらいon の使い方もみておきましょう。まず、This is a book on India. といえば「これはインドについての本である」という意味で「話題」を表します。また「クリスマスに」はon Christmasと表現します。これらのonは「接触」とどう関係しているでしょうか。結論をいえば、onの接触は「接して離れない」という意味から「固定」の意味合いに展開します。そして、固定（fixation）には「話題的固定（topical

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

fixation）」と「時間的固定（temporal fixation）」があるというのがここでのポイントです。

This is a book about Indiaだと「インドを話題の中心にしつつもその周辺にも関心が及ぶ」といった感じですが、on Indiaだと「インドの話題に接して離れない」ということから「もっぱらインドについて」という意味になるのです。専門書などで、ある話題にきっちり焦点を当てている場合にはonを使います。これは話題を固定するというケースです。

また、以下のようにon は「日、時、機会」などを表現し、時間的にも使います。

●「日、時、機会」の例

on a rainy day　雨の日（まさかのとき）に、on Christmas Day　クリスマスの日に、on a cold morning ある寒い朝、on December 1st 12 月1 日に

onの「接触」は、カレンダー上で曜日や国民の祝日や誕生日などを固定するはたらきにつながると考えることができます。カレンダーで決まっている曜日や祝日は日程が固定されたものと考えることができます。これは時間的固定のケースです。on a cold morning は「ある特定の日」として意識に留める（固定する）ことからonで表現した例と考えることができます。on time は「時間通りに」、in time は「間に合って」という意味で使い分けますが、on は「予定時間に接して」から「時間通りに」となり、in は「時間の内に」ということから「間に合って」となります。

形容詞の場合

このようにコア図式は、基本語（基本動詞と前置詞）を使い分け、使い切る力である基本語力を育てるのに有効性を発揮します。ほかの基本語については、形容詞であれば、連語についての知識が重要になってきますが、コアでとらえるという発想は有効なように思います。例えば、以下は意味的に関連した形容詞の意味の違いを簡単にまとめたものです。

big と large

「大きい」という意味の基本語としては big、large が用いられますが、会話では big の方が好まれます。big は「規模(サイズの客観的な大きさ」を表すだけでなく、主観的な意味合いを持ち「重要性･程度の強さ」を表します。これに対し、large は客観的な用法が中心であり、「サイズ・規模・数量が大きい」ことを表します。そこで、a big man は「体の大きい人」と「偉い人」との間で曖昧ですが、a large man は一般的に「体の大きい人」の意に限定されます。数量に関しては一般に a large number of（多数の）、a large amount of（多量の）のように large が使われます。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

difficultとhard

difficult は「何かを取り扱う上で人をてこずらせる」という意味合いを持つ形容詞です。一方、hard は「硬い」という基本義から推測されるように、「対象それ自体が本来的にもっている性質によって手ごわい」という意味合いがあります。内容がむずかしければ解答を導き出すのもむずかしいという関係が成り立ち、「難問」は、a difficult problem とも a hard problem とも言いますが、「気難しい人」の場合は、内容がむずかしいのではなく、取り扱いがむずかしいということなので、a difficult person であって a hard person とは言いません。

wrongとincorrect

wrong は、right(正しいに対して「間違っている」、incorrect は correct(合っているに対して「合っていない」ということを強調する形容詞です。「間違った人」や「間違った番号」の場合のように「選択を間違っている」の意では wrong を使い、この場合 incorrect は不可となります。「内容的に間違っている」の意だと wrong と incorrect の両方が可能です。例えば a wrong report だと「間違った(偽の報告」、an incorrect report だと「事実と内容が異なる報告(誤報」、a wrong answer だと「外れている答(間違った解答」、incorrect answer だと「内容的に正しくない答」の意になります。

このように形容詞についても、意味的な違いは、それぞれの語の持つコア（本質的な意味）のようなものがあり、それを比較することで示すことができます。しかし、形容詞の場合、ある形容詞がどういう名詞と結びつくか、その結びつきの可能性に関する知識が求められます。連語の可能性は開かれており、すべてを網羅することは、現実的に不可能ですが、必要に応じてリストの長さを伸ばしていくことは可能です。例えば deep であれば、次のような名詞との連語を形成します。

DEEP：meaning, hole, ditch, river, cut, emotion, sleep, valley, knowledge, sorrow , etc.

deep は「深い」といっても水平の場合は「奥行きの深さ」を問題とするため、a deep tunnel とも言います。日英語の比較ということからいえば、「思慮深い（deep consideration」「深い愛情（deep love)」とは言うが、「霧が深い（dense fog)」「毛深い（thick hair)」「執念深い（tenacious)」「深酒（heavy drinking)」などでは deep は使わないとい違いがあります。また、「深い関係」「深い考え」「深い洞察力」などを a deep relationship、a deep idea、a deep insight と表現することも可能性ですが、英語の母語話者からすればやや不自然さを伴います。

しかし、世界共通語としての英語という観点にたてば、こうした連語性は、文化的な違いをするきっかけになり、むしろ話題として取り上げることもできると思います。「青い」は

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

「青い山」「青野菜」「青二才」などに使われますが、英語の母語話者からは green を使います。そこで、「彼はまだ青二才だ」という意図で He is still blue.といっても相手には通じないかもしれません。しかし、それをきっかけに英語母語話者は He is still green. だとか He is a green horn.というということを知ることで、話は盛り上がる可能性があるのではないでしょうか。

いずれにせよ、基本語力の中核となる基本動詞と前置詞については、「使い分け、使い切る」力を身につけることが my English の言語リソース（語彙力）において必須となります。英語を世界共通語として使用するに際して、コモン・コアがあるとすれば、基本動詞と前置詞に関する基本語力はそれに含まれることになるというのが筆者の考えです。

ネットワークで広げる拡張語彙

英語母語話者の語彙数についていろいろな推測が行われており、その数値は 1 万語から 7 万語ぐらいまでまちまちです。筆者は、英語でさまざまなタスクを行うのに、語彙数としては 15000 語ぐらいが必要だろうと考えています。語彙には内容語と機能語というものがあり、内容語は開かれた領域で数がこれからも増える可能性があるのに対して，接続詞、前置詞、冠詞、代名詞などの機能語は閉じた領域でその数が増えることはまずありません。内容語には、動詞、形容詞、副詞、それに名詞が含まれます。

筆者は、手元に 15,000 語程度のデータベースを持っています。これは品詞別に独自開発したものですが、内訳をみると、動詞、形容詞、副詞、名詞の数は以下のようになっています。

動詞：約 1,800 語（12%）　　形容詞：約 3,400 語（23%）

副詞：約 1,100 語（0.7%）　　名詞：　約 8,700 語（58%）

予想通りに、圧倒的に多いのが名詞で、約 60%になっています。意外なのが形容詞の数の多さで、全体の 23%を占めており、名詞に次いで 2 位になっています。3400 個もの形容詞を知っていれば、拡張語力として可能性は実に大きいといえるでしょう。品詞に関係なく語彙項目をリストすれば、15000 語の語彙レベルには rectify, regurgitate, provoke, prudent, pry, quash, quixotic, putatively, retroactively などの単語が含まれます。かなりのレベルの語彙だといえます。

仮に拡張語の数を 15,000 語だとすれば、語彙力とは、基本語力を基盤にしつついろいろな領域における語彙を 15,000 語程度に拡張していくことということになります。しかし、

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

拡張語力ということからいえば、大切なのは 15,000 語という数ではなく、「どういう領域」の語彙を含むかということです。そして、学習者の側からいえば、どうやって拡張語力を高めていけばよいか、ということになります。

学習の基本はたくさんの英語に触れるということです。しかし、exposure（触れること）の量だけで、語彙を拡張していけるかといえば、なかなかむずかしいと思います。そこで、「体系的な学習方法」というものが必要となるのです。そして、その際の鍵となるのは、「ネットワーキング（networking)」――ネットワークで繋げる――という考え方です。

つまり、実践的な語彙力を身に付けるには、語彙の数のみに注目したのではだめで、語彙が使いやすく分類されているかどうかが重要になります。ここでいう「語彙の分類」が語彙ネットワークにあたります。ネットワークで語彙をうまく繋ぐことができれば、有意味学習（meaningful learning)」につながり、ひいては語彙の量を有効に増やすということになるはずです。

ネットワーキングの方法

ネットワーキングの方法としては、「形態的分類」「意味的分類」「場面的分類」などが考えられます。形態的分類としては、名詞、形容詞、動詞、副詞、前置詞など、品詞による分類が最も一般的です。接頭語、接尾語などを念頭においた分類も形態的な分類になります。例えば create や produce という動詞であれば、そこから以下のような語彙を派生させることができます。

create： {create, creativity and originality, creative ideas, creation, Creator}
produce：{produce, production, productivity, productive, product, producer}

動詞の類義語で、そのままでは意味の違いがわかりにくいものでも、それぞれの名詞形を比べると差別化しやすくなるということがあります。例えば「指導」関連の動詞に teach, instruct, advise, direct などがありますが、これを名詞形で比較するとそれぞれの意味の特徴が分かりやすくなってきます。

{teach, instruct, advise, direct}
↓
{teacher, instructor, advisor, director}

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

instruct と advise と direct の違いはにわかにはわからなくても、「インストラクター」「アドバイザー」「ディレクター」と関連づけるとなんとなく理解することができると思います。

また、形態的なネットワーキングの代表的な方法として、接頭辞や接尾辞に注目するというやり方があります。{e-, ab-, non-, trans-}などは接頭辞の例で、{-proof, -specific, -oriented, -able, -ly, -wise}などは接尾辞の例です。e- には「電子の、インターネット上の」という意味合いがあり、そこから e-commerce、e-learning、e-dictionary など多数の語彙が作られます。例えば suspend なら sus-+-pend に分かれ、sus- は「下に」という接頭語です。そして、-pend は「つるす」という語幹です。「何かを下につるす」というイメージが suspend にはあります。suspend に関連する語としては、suspended, suspense, suspender, suspension があり、以下のようにネットワークすることができます。

sus - pend ⟶ 一時停止にする→停職・停学にする→浮遊させる

- suspended 一時停止にした→suspended sentence 執行猶予
- suspense 未決定の状態→サスペンス
- suspender つるすもの→サスペンダー（suspender belt）
- suspension つるすこと→停職・停学
  - ⟶ suspension bridge つり橋

このように形態的分類も語彙の数を増やす上では有用ですが、むしろ場面的、概念的な分類が拡張語力を高めるのにはより効果的です。以下では意味的な分類による概念ネットワークの例を見ておきます。

概念的ネットワーキングの仕方

動詞であれば、知覚動詞（例.see、smell、hear、taste、touch）、移動動詞（例.walk、run、jump、fly）、取引動詞（例. buy、sell、give、exchange）、加圧動詞（例.push、pull、shove、drag）などのように概念的に分類する方法があります。

概念ネットワークの作り方の 1 つとして、基本動詞の意味の展開に沿って動詞のネットワーキングを行なうというやり方があります。ここでは cut を例にしてみます。cut のコアは「何かに鋭利なもので切り込む」と記述することができます。このコアを軸にして、「切り込み（cut a piece of paper)」と「切り離し（cut a branch from the tree)」の意味が展開し、「切り込み」から「ケガをする（cut one’s finger)」、「切り離し」から「縮小する（cut the costs)」が派生します。この基本動詞の意味の構造に着目することで、以下のような動詞の

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

ネットワークを描くことができます。

【切り込む】
carve 刻む
chop たたき切る
engrave 彫る
slash 深く切る
slice 薄く切る
trim 刈り込む

【切り離す】
detach 引き離す
dissect 解剖する
divide 分割する
partition 仕切る

CUT

【ケガをする】
injure 傷つける
stab 尖ったもので指す
wound 武器などで傷つける

【縮小する】
abbreviate 省略する
abridge 要約する
curtail 削減する
reduce 量・額などを減らす
shorten 短くする

「ケガをする」といっても injure だと「(事故などで) 傷つける」、would だと「(武器などで) 傷つける」、stab だと「尖ったもので刺す」など意味の分業が起こります。

概念的分類のもうひとつの例として「移動動詞」を見てみましょう。

移動動詞： move

- 前に：advance, proceed, progress
- 後ろに：retreat, recede, regress, withdraw
- 上に：rise, ascend
- 下に： fall, descend
  - 液体の中を：sink
- 回転して：revolve, rotate, wirl
- 徒歩で：walk, ramble, stride, toddle, wander, stagger, pace
- 急いで：hurry, rush, dash, trot

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

移動するといっても「前後、上下」あるいは「回転して」「歩いて」「急いで」などに分類することができます。また、「徒歩で移動する」に注目すると「ぶらぶら歩く（ramble）」「大股で歩く（stride）」「よちよち歩く（toddle）」「さまよい歩く（wander）」「よろよろ歩く（stagger）」「歩調正しく歩く（pace）」など様態をさらに細かく分けていくことができます。

概念ネットワークは形容詞の拡張をする際にも有効です。以下はその例です。

(1) 視覚感覚：
大きさ（big, large, little, small；tiny, minute, huge, gigantic, massive）
広さ・太さ・濃さ（wide, broad, spacious, narrow, thick, heavy, stocky, thin, slim, fat）
長さ・高さ・深さ・遠さ（long, short, high, tall, low, deep, shallow, distant, remote）
色彩・明暗（colorful, red, brown, dark, light, bright, dim, shadowy, rayless）
清濁・美醜（clean, clear, dirty, beautiful, pretty, lovely, ugly, gross, horrid, homely）
(2) 価値判断：
善悪可否（good, great, nice, fine, excellent, fair, bad, terrible, evil, positive, negative）
価値・効率(valuable, precious, useful, useless, expensive, convenient, reasonable)
真偽・正誤(true, false, correct, right, wrong, real, pure, untrue, accurate, inaccurate)
必要性(important, necessary, essential, influential, significant, crucial, vital)

ここで示したような形容詞の概念領域が参照枠としてあれば、例えば「善悪可否、価値・効率、真偽・正誤、必要性を表す形容詞を使って、ある対象あるいは状況に対する価値判断を表すことができる」といった記述を行うことができます。別の切り口を採用すれば「善悪可否を表す形容詞として｛good, great, wonderful, excellent, perfect, fair, bad, terrible, evil, positive, negative｝を使うことができる」という記述の仕方も考えられるでしょう。いずれにせよ、形容詞の意味世界とは何かについての概念分析があってはじめて、形容詞に関する妥当性の高い can-say が可能になるということです。形容詞の概念領域の全体像を示すことができれば、全体の中でどれが語彙的に強いか（あるいは弱いか)、さらには各領域内でのどこが語彙的に強いか(弱いかを示すことができれば、学習者ひとりひとりの語彙力（ここでは形容詞力）を共通の基準にしたがって記述することが可能となります。

このように、概念ネットワークは動詞や形容詞の学習に有効です。しかし、名詞の場合には概念ネットワークとは異なったネットワーキングの仕方が必要となります。

名詞のネットワーキング

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

15000 語あれば量的には十分な語彙力だといえます。しかし、ここでは、数よりも、実用に供する形で拡張語を増やしていくにはどうすればよいか、ということに関心があります。上の品詞別割合でもわかるように、語彙の中で一番数の多いのは名詞で、拡張語力の鍵は名詞です。名詞がわからなければ話題について話すことはできません。学問の世界は、まさに専門用語（名詞）の世界だといえます。もちろん、名詞の使い方については動詞も形容詞も関係してきますが、名詞が中心であるのは確かです。

学び方を学ぶ（learning how to learn）

私たちは日本語の駒としてたくさんの語彙を知っており、それを使って、日常を生きています。その「たくさんの語彙」はアルファベット順に整然と並んだ固定リストでは決してありません。私たちの頭の中にある「メンタル辞書（mental lexicon）」は、ある項目が別の項目を呼び起こすことができるように、話題に柔軟に対応できるハーパーテキストだといえます。語彙学習メソッドの前提となるのが、体系的に有意味に学ぶ、ということです。漠然とではなく体系的に、ということが大切です。そして、機械的ではなく有意味に学ぶことが大切です。

小学校の国語の授業では、漢字の書き取りや読み取りのための漢字ドリルというものがあり、全国で小学生たちは、毎日の宿題として漢字ドリルを行っています。これは、体系的な学びの１つの形態です。母語か外国語かではなく、語彙の学習は体系的に行うことが大事です。しかし、体系的であるというだけではだめで、有意味に学ぶということが重要です。漢字ドリルはあまり有意味とはいえません。有意味であるための条件は、「意味的に関連している」ということです。学習目標としての漢字を脈絡なく次々に覚えていっても、おもしくはありません。日本語を日常的に使っていること、学習する漢字の数が限られていること、の２つの条件が満たされるため、漢字ドリルは生徒からすれば有意味ではなくても、結果としては役立つのだといえます。

しかし、日常的に英語を使う機会がなく、学習目標となる語彙の数も未定という状況ではどうでしょうか。基本語力と文法力は共通の英語力の基盤なので英語学習者全員が体系的に学ぶ必要があります。しかし、拡張語力になると、どの領域(話題の語句をどれだけたくさん学習したいかには、大きな個人差があるはずです。

こういう状況で、機械的にやみくもの語彙を覚えるという方法は効果が期待できません。繰り返すと、体系的かつ有意味な学習が必要なのです。体系的といっても、学習語彙を限定してそれを体系的に学ぶということではありません。自分の関心のある領域の語彙をどんどん拡張していくということです。自分の関心領域の英語の語彙ネットワークを作

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

成するという方法は体系的な学び方です。そして、自分の関心領域で使われる語彙ということで、そこでリストされるのはそれ自体でも有意味なものとなります。

例えば「野球」に関心があるとします。野球で使われる用語は日本語であれば知っているでしょう。すると、日本語から英語表現というった具合に思いつく表現をリストする方法が考えられます。英語表現は、Web 上で調べることができます。例えば、思いつくままリストすれば、以下のようなリストができます。

「打席」 at bat (AB、「打順」 batting order、「打点」runs batted in (RBI、「三振」 strikeout、「フォアボール」base on balls、「ゴロ」 grounder、「デッドボール」 hit by pitch、「安打」 base hit、「二塁打」 double (two-base hit、「満塁」 bases loaded、「ナイター」 night game、「延長回」 extra inning

もちろん、動きを表す動詞表現も整理するといいでしょう。ここでも思いつくままリストしてみましょう。

「打者を歩かせた」He walked the batter. / 「（捕手が）シグナルを送る」The catcher gives the signal. / 「（ピッチャーが）首をふる」The pitcher shakes him off. /「三塁コーチがサインを出す」The third base coach flashes a sign. /「監督がダッグアウトから出てくる」The manager is coming out of the dugout.

このようにリストするだけで、日英語の違いもわかるし、野球用語として整理されていく感じがするでしょう。リストがある程度長くなったところで、試合、球場の配置、打者・投手、キャッチャー、走者、監督・コーチなどに関連する用語を分類していくと、野球用語の英語の語彙ネットワークを作成することができます。

個人の場と個人の関心

最も有効と思われる語彙ネットワークは、個人の場と個人の関心に注目したものです。人間は環境の中で生きています。ここでいう環境は自然環境だけでなく時々刻々と変化する社会環境を含みます。さて、そうした環境の中で、環境と相互作用しながら生活していく中で、家庭が個人の場の中心になります。ここでいう家庭は一人の場合も複数人の場合も含みます。衣食住の中で住の中心としての家庭に軸足を置きつつ、年令によって仕事場あるいは学校が外でのメインとなる活動の場になります。専業主婦の場合には、家庭が中心かもしれません。そして、仕事あるいは学校とは別の場もあります。その１つはリクリエーションの場である。ゴルフ、公園、映画、スポーツ、旅行などがリクリエーションに含まれます。そしてもう１つは冠婚葬祭の場で、これはやや特殊な場といえるでしょう。いずれにせよ、人は、自然・社会環境内でいくつかの主要な「場面」（scene）の中でさま

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

ざまな活動をして生きています。だとすると、拡張語力を身に付ける方法として、場面に立脚した語彙ネットワークの作成が考えらます。例えば、レストランで食事をしているとき、料理を評価する形容詞として整理すれば以下のようになります。

料理の評価

appetizing　食欲をそそる
bad　悪くなった
biting　ツーンとくる
bitter 苦い
bland　薄味すぎて味がない
chewy かみごたえのある
comforting ほっとする
creamy クリーミーな
crispy カリッとしている
crunchy　パリッとした
delicate 繊細な
flat 気の抜けた
flat　気の抜けた
flavorful 風味に富む
fruity フルーティーな
fruity フルーティーな
good, delicious おいしい
greasy 油っぽい
heavy こってり
hot/spicy　辛い
insipid 風味のない
juicy ジュワーとしている
light あっさり
mellow　まろやかな
mouthwatering よだれが出そうな
oily 油っぽい
powdery 粉っぽい
pungent 味覚を刺激する
rancid　カビ臭い
rich 濃厚な、豊潤な
salty しょｐっぱい
salty しょっぱい
savory 香りがよくて食欲をそそる
scrumptious　めちゃうまい
smooth なめらかな
strong 濃い
strong　刺激が強い
sugary　甘ったるい
tasteless　味がなくまずい
watery 水っぽい
weak 薄い
wonderful, great　とてもおいしい

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

これはレストランでの食事という場面の１つを切り取ったものです。一人ひとりの活動の場以外に、「個人の話題の関心」というものがあります。個人の関心は多岐に亘り、どのように分類するか、それ自体が大きなテーマですが、例えば「軍事」に関連があれば、以下のような語彙がリストして選ばれるでしょう。

ABC weapons	核・生物・化学兵器
ABM	弾道弾迎撃ミサイル
A-bomb	原爆
act of war	戦争行為
aerial inspection	空中査察
AFN	米軍放送網
aggression	攻撃
aggressive action	侵略行動
air base	空軍基地
air cover	航空機による上空掩護
air drill	空襲用訓練
air force	空軍基地
air raid	空襲用訓練
aircraft	航空機
aircraft carrier	空母
airlift	空中補給
air-to-air missile	空対空ミサイル
alert	警戒（態勢）
All clear!	空襲解除

これはほんのサンプルですが、個人の関心を話題として取り上げたとき、その話題を語るための表現が必要となります。基本語はどの話題にも関係なく言語活動の基盤を成すものですが、拡張語は、「活動の場」か「話題の関心」に関連させてネットワークするというのがここでの提案です。

英語の語彙ネットワークはリストと違う

さて、英語の語彙ネットワークはリストとは違います。ネットワークは点と点を繋ぐ作業が必要です。そして、リストを超えたネットワークを作成にはその作成のための指針が必要です。その指針となるのが、上記の「個人の活動の場」と「個人の関心」という考え方です。そして、この考え方から、二種類の英語の語彙ネットワークを考えることができ

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

ます。「事物配置型のネットワーク」と「話題展開型のネットワーク」です。事物配置型のネットワークは個人の活動の場に関係し、話題展開型のネットワークは個人の話題の関心に対応します。

事物配置型ネットワーク

事物配置型ネットワークでは、まず、活動の場所あり、そこにさまざまな事物が置かれているといった世界の英語の語彙ネットワークです。大きなフレームからどんどん小さなフレームにしていくことで、精度の高いネットワークを作ることができます。例えば「自宅」の様子を思い浮かべてください。「家庭」に関する語彙のネットワークを作るとします。まず家の周りと家の中に分かれます。家の周りといっても庭や駐車場、家の中といっても、玄関、浴槽、台所などの配置関係を用意に頭で描くことができますね。そして「庭」に注目すれば、庭にあるモノをリストすることができるでしょうし、庭で行う行為をリストすることができるでしょう。これがネットワークになるのは、「家庭」を話題の中心として、外、内、そして内なら玄関、浴槽といった具合に、関心の焦点を移していくこことができるからです。これは「事物配置型のネットワーク」だといえます。いろいろな部屋に関心を移し、そこに何が置いているかを英語にしていくと、家関連の英語の語彙ネットワークを作成することができます。このようにして、玄関、書斎、浴室、寝室など場面を決めてそこに何があるか、あるいはそこで何をするかを整理していけば、体系的な語彙の学習に繋がります（日常場面の力については第 6 章で取り上げます）。

話題展開型ネットワーク

もう一つの種類は、環境問題や政治といった話題の場合です。「家庭」の場合は、物事の配置がはじめからあり、それについて語彙をあてていくという作業ができます。しかし、環境問題が話題の場合、はじめから構造があるわけではありません。構造を作る必要があるのです。そうしないと、英語の語彙ネットワークは作れません。そこで本稿では、話題展開型のネットワークと呼びます。話題としては、例えば以下が含まれるでしょう。

名詞の意味領域

社会

【経済・財政・金融・経営・労働】【メディア・情報・通信・コンピュータ・放送・新聞】【政治・法律】【軍事・防衛】【犯罪・警察・社会問題・性風俗】

生活

【医療・保険】【教育】【住生活・料理・食料・服飾】【結婚・家庭】娯楽【音楽】【スポーツ】【交通・旅行】

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

自然・科学

【天気・気象・気候】【地形・動植物】【環境】【宇宙】【バイオテクノロジー】

例えば環境問題についての使われる語彙をリストすることは、コンピュータでテキスト分析すればむずかしいことではありません。それを頻度順、アルファベット順に並べることも、そして語彙の用例を示すこともむずかしいことではありません。しかし、環境問題の英語の語彙ネットワークを作成しようとすれば、環境問題のストーリーを作る（話題を展開する）ことが必要となります。自分の必要に応じて、環境問題のいろいろな側面に強弱濃淡のアクセントをつけて、語彙を整理していくということです。環境問題の原発事故に関心があれば、そこに強調点を置くでしょう。地球温暖化に興味のある人は、それについて語る語彙を充実させたいと思うでしょう。

日英語でストーリーを語る

専門分野のことであれば、たとえ日本語でのやりとりであったとしても英語を交えて話すということが多くみられます。この考え方を展開して、日英語ミックスのストーリーの素案を作り、日本語から英語への比率がシフトすることで、トピックの関連した英語の語彙ネットワークを広げるという方法が有用であると筆者は考えます。以下は日本の国会議員の「選挙」に関係したストーリーの例です。

国会が「解散（dissolution）」すれば、「現職議員（incumbent politician）」は職を失う。そして解散があれば「選挙」（election）になる。選挙には「国政選挙（national election）」「地方選挙（local election）」「統一地方選挙（unified local election）」などが含まれる。国政選挙の場合、「小選挙区制（single-seat constituency system）」と「比例代表制（proportional representation system）」がある。通常、選挙は「公選（public election）」で、「選挙管理委員会（board of elections）」の管理下で行われる。「立候補者（candidate）」は「選挙区（constituency）」に入り、「選挙運動（campaign）」を行う。「公開討論会（forum）」に参加し、路上で「党の綱領（party platform）」や「公約（campaign promises）」を説明し、できるだけ多くの「浮動票（floating vote/uncommitted vote）を集めようとする。「世論調査会社（polltaker）」が数々の「世論調査（public survey）」を行い、「世論（public opinion）」の動向に注視する。選挙運動を通して「アナウンス効果（announcement effect）」や「バンドワゴン効果（bandwagon effect）」が生まれることがある。「賄賂（bribe）」や「ソデの下（grease payment）」を「投票権（suffrage）」のある人に渡したりする「不正選挙（rigged election）」は「政治資金規正法（Political Funds Control Law）の違反となり「逮捕（arrest）」の対象になる。

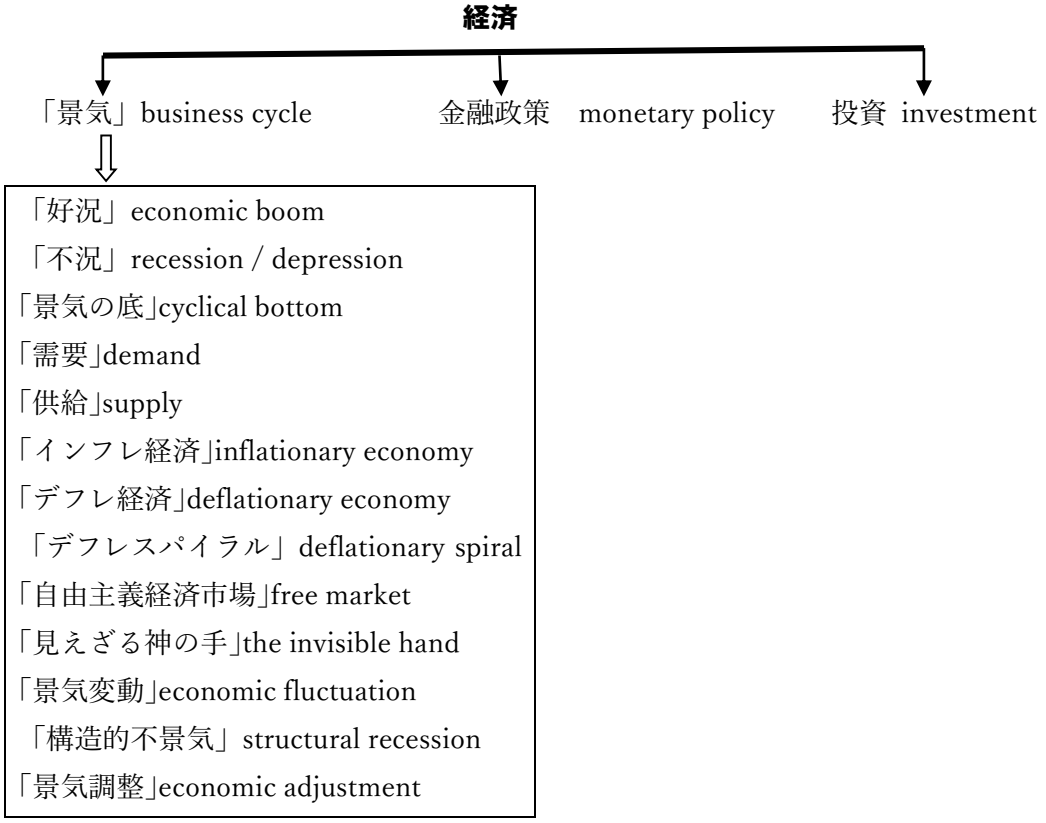
このように関心のある話題について、自分でストーリーを作り、その中に英語表現をいれて

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

いくという方法です。同様に以下は、景気に関してのストーリーです。

「経済」economy はよく「景気」business cycle / trend ということばとの関連で語られる。「好況」は economic boom、「不況」は recession / depression と表現される。景気循環の山と谷のイメージから、「景気の底」cyclical bottom などということがある。この景気は、「需要」demand と「供給」supply のバランスにかかっているわけだが、そのバランスが崩れると「インフレ経済」inflationary economy や「デフレ経済」deflationary economy あるいは「デフレスパイラル」deflationary spiral という事態が発生する。「自由主義経済市場」は free market といい、よく「見えざる神の手」the invisible hand によって動かされているという表現をする。「景気変動」economic fluctuation は避けられないものだが、「構造不況」structural recession などで景気の底から抜け出せないときには、人為的な「景気調整」economic adjustment を行うことがある。

ストーリーの作り方は自由ですが、関連した複数のストーリー（金融政策や投資など）を元に、以下のような語彙ネットワークを作成することができます。



Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.

おわりに

英語の語彙ネットワークは体系的で有意味な語彙の整理の仕方で、その産物として手にすることができます。しかし、それを手にして見るだけではだめです。それを自分のものにする、つまり、拡張語力にしていくには、外在するネットワークを自分の中に内在化する必要があります。そうしてできたネットワークをメンタルネットワークと呼ぶことができます。英語の語彙ネットワークを作成すれば学習しやすくなるでしょう。しかし、それを自分のメンタルネットワークにしていくには、本物のテキストに当たることが不可欠です。実際に、テキストを読んでいくと英語の語彙ネットワークに載った語句がたくさんでてくるでしょう。その語句に注意を向けることで、内在化が進むでしょう。もちろん、英語の語彙ネットワークとテキストを相互作用させるというか、相互媒介的な関係に置くことが必須です。つまり、英語の語彙ネットワークを媒介してテキストを読む、そして、テキストを媒介にして英語の語彙ネットワークを確認し、アップデートしていく、という関係です。私たちは分類する力を持っております。この分類力を最大限に発揮して、独自の英語の語彙ネットワークを作成しつつ、英文を読む。この相互作用的な行為を通して、本当の意味での拡張語力は身に付くのだと思います。

Copyright © 2019 PEN言語教育サービス. All Rights Reserved.